

家屋三

神奈川・由比ヶ浜南遺跡

ゆいがはまみなみ

(3) □にから地
□に山□り

四月
[]

(4) 111本□□□□

方形土坑

(5) 右件□

包合層

[]

(6) []

(7) []

(1)(6)(7)は折敷の断片。(5)は箆。木簡を一次的に加工したものか。

関係文献

9 鎌倉遺跡調査会『米町遺跡発掘調査報告書』(110〇五年)

(降矢順子)



(横須賀)

谷駅西の道路辺りは稻瀬川の旧河道であるため、調査地の立地する砂丘は、滑川

1 所在地	神奈川県鎌倉市由比ヶ浜四丁目
2 調査期間	一九九五年(平7)年三月～一九九七年六月
3 発掘機関	由比ヶ浜南遺跡発掘調査団
4 調査担当者	齋木秀雄
5 遺跡の種類	都市跡
6 遺跡の年代	一二世紀第I四半期～一五世紀後半
7 遺跡及び木簡出土遺構の概要	由比ヶ浜南遺跡は、鎌倉市旧市街地のほぼ中心を南北に流れる滑川の西岸に形成された砂丘上に位置している。この砂丘は、現在の鎌倉市内のうち、東は滑川西岸、北は下馬交差点から長谷観音前に至る国道一三四号線、西は鎌倉・江ノ島電鉄線の長谷駅横の道路周辺にまで広がっている。長

と稻瀬川との間の海浜部に形成された海浜砂丘といえる。

この砂丘は、中世には前浜または由比ヶ浜（あるいは由比ヶ浦、由比の浦）と呼ばれた地域であった。由比ヶ浜の地名は、「新編相模國風土記稿」によれば、稲村ヶ崎を鎌倉側に越えた所にある坂の下から小坪の飯島（西浜）まで広がる鎌倉の浜全体の総称である。しかし、鎌倉時代には少なくとも滑川西岸の由比ヶ浜と小坪の西浜（和賀江島の西）に大きく分かれていたと思われる。

調査の結果、五面の遺構面を確認した。一面は宝永の火山灰層で、土壙墓を検出した。一朱金貨一枚・小型柄鏡（薩摩守家長）の銘をもつ・かわらけ皿一枚が出土した。一面は軽石層で、土壙墓と土坑を検出した。三面は埋葬遺構群で、单体埋葬・合葬埋葬・集石埋葬・頭骨埋葬・火葬骨埋葬・散乱骨などさまざまな遺構からなる。

四面は鎌倉時代の生活遺構群で、屋敷・方形竪穴建築・土坑・道路遺構・埋納遺構・井戸・河川・溝状遺構などを検出した。五面は埋め立て以前の海岸部で、獸類の頭骨をコの字状に並べた遺構や湯状遺構、自然流路などを検出した。

木簡は四面の河川から四点出土した。この河川は、屋敷西側で検出した木組溝とその下流の木組のない部分からなる。下流部分では河川は八の字に広がるように流域を広げ、砂丘に阻まれて西に流れを変え、その後やや東に向きを変えながら南下する。流域幅一一一m、確認深さは三〇～五〇cm、底面の海拔は最も北側で二・

四m前後、南側で一・一mを測る。堆積土から察すると、砂丘のない比較的平坦な砂浜が広がっていたと考えられる。木簡以外の遺物には、中国製船載陶磁器、瀬戸・常滑窯製品、かわらけ、漆塗椀・皿、木製品などがある。

8 木簡の釈文・内容

(1) 「^(パン) 南無大日如來」(第一面)

・「^(パン) 」(第二面)

・「^(パン) 南無^(大日如來)」(第三面)

・「」(第四面)

468×23×21 061
(67)×25×5 019

「上方

□平

(4) 「

178×30×3 081
(71)×15×3 081

(1)は下端を尖らせた角柱状の塔婆の四面に同文を記していたと考えられる。(2)(3)は荷札の断片か。(4)は呪符の可能性がある。

9 関係文献

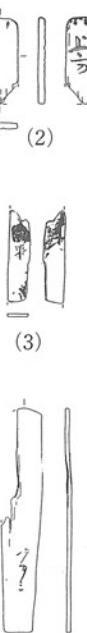
由比ヶ浜南遺跡発掘調査団『由比ヶ浜南遺跡』第一分冊・本文編
(1)〇〇〇〇年)



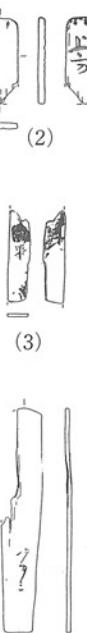
(1)



(2)



(3)



(4)

所在地	神奈川県鎌倉市長谷四丁目
調査期間	二〇〇一年度調査 二〇〇一年(平13)五月~九月
発掘機関	鎌倉市教育委員会
調査担当者	福田 誠
遺跡の種類	寺院跡
遺跡の年代	一二三世紀中頃~近世
7	遺跡及び木簡出土遺構の概要

高徳院周辺遺跡は、鎌倉の西端、大仏坂の南側に位置し、高徳院境内に所在する。現在高徳院は大異山高徳院清淨泉寺と号し、鎌倉

大仏として有名な国宝銅造阿弥陀如来坐像が鎮座する寺院である。



(横須賀)

鎌倉大仏に関しては、暦仁元年(一一三八)に僧淨光を勧進聖として大仏堂の造営が始まり、造営開始から約五年後の寛元元年(一一四三)には木造の大仏と